

新連載執筆のねらいと執筆者紹介

新宗教のブラジル伝道

異文化に移植された宗教はどのように展開するのだろうか。そのことを我々はどのような視点で理解すればいいのだろうか。本連載は日本の宗教のブラジルにおける受容の問題を、当該社会の宗教文化のコンテクストにおいて理解しようとするものである。対象とする宗教は、天理教、生長の家、パーフェクトリバティー教団である。これら教団宗教の教えや組織に違いはあれども、ブラジルにおける受容のされ方には共通点を見出すことができる。このことは、異文化伝道を理解するには宗教を受け入れる人々の視点に立ち、当該社会の宗教文化を知ることが大切であることを示唆している。共通点とは、まさにブラジルの宗教文化のありようが映し出されたものだからだ。そこで本連載では、同国の宗教文化の形成を歴史的に精査したうえで、考察対象となるそれぞれの宗教の展開について受容者の視点で述べることにしたい。苦悩に苛まれる入信者や信者と、彼らに寄り添う布教師の体験を詳述し、彼らの葛藤や喜びを掬いあげるといふ理解の仕方もあるだろう。しかし、本連載は宗教理解の客観性に立つ視点からこの問題にアプローチしていきたい。

山田政信 (やまだ まさのぶ)

天理大学外国語学部イスパニア学科在学中、政府交換留学生としてメキシコ国ユカタン州立大学に留学。大学卒業後、天理教兵神大教会勤務を経てブラジル芳洋教会（サンパウロ市）青年として同教会運営の日本語学校に勤務。青年勤めの傍ら、サ

ンパウロ大学文学部スペイン文学科修了。7年半のブラジル滞
在後、天理教海外部に勤務し、国内派遣留学生として筑波大学
大学院修士課程地域研究研究科修了。同大学博士課程哲学思想
研究科単位取得満期退学。ブラジル国ペルナンブコ連邦大学哲
学人文研究所客員研究員。文化庁「世界の宗教事情にかんする
調査」でブラジルを担当。著書に三田千代子（編）『グローバ
ル化の中で生きるとは 一日系ブラジル人のトランスナショナ
ルな暮らし』上智大学出版等。

第3回「宗教と環境」研究会を開催（3月23日）

佐藤孝則



井上有一氏

「エコ・フィロソフィーの展開と宗教者の役割」をテーマに、京都精華大学の井上有一教授から「エコロジー運動のディープなアプローチの今日的意義 一環境思想に求められるラディカルさはなにによって構成されるのか」と題して発表していただいた。その中で、井上氏は恩師であるアルネ・ネスが提唱した「ディープ・エコロジー運動」が、日本では少し異なって理解されていることについて言及した。

また、おやさと研究所からは、金子珠理研究員が「エコフェミニズムの思想と宗教」と題して発表した。

平成 25 年度 公開教学講座開催のご案内

信仰に生きる 『逸話篇』 に学ぶ (2)

教祖のご在世当時、道の先人たちは教祖から直接聞いたお言葉をしっかりと心に治め、生涯、自ら信仰を生きる心の指針としました。そうした教祖の逸話は、世代を超えて語り伝えられ、お道の信仰の支えになっています。

この公開教学講座では、『稿本天理教教祖伝逸話篇』においての教祖の逸話を手がかりとして、お道の信仰の世界の一端を明らかにしたいと思います。本講座は、本年4月から11月（7月を除く）の毎月25日、午後1時から2時45分にかけて、道友社6階ホールで開催を予定しています。内容は右記のとおりです。

4月25日(木) 19	「子供が羽根を」	佐藤浩司
5月25日(土) 18	「理の歌」	岡田正彦
6月25日(火) 21	「結構や、結構や」	佐藤孝則
8月25日(日) 28	「道は下から」	金子 昭
9月25日(水) 15	「この物種は」	森 洋明
10月25日(金) 8	「一寸身上に」	宮田 元
11月25日(月) 5	「流れる水も同じこと」	辻井正和

場所：天理教道友社6階ホール

時間：13:00～14:45

*お車での来場はご遠慮下さい。

グローバル天理

第14巻 第5号 (通巻161号)

2013(平成25)年5月1日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion
Tenri University

発行者 深谷忠一

編集発行 天理大学 おやさと研究所

〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <http://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/j-home.htm>

E-mail oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

印刷 天理時報社

Printed in Japan